

（ 背景・要因／強み ）

（ 虐待の事実 ）

（ 結 果 ）

＜本人側の背景・要因＞

ラクナ梗塞後遺症による判断能力低下
近隣に迷惑かけてはいけないという思い

＜養護者の背景・要因＞

A（母）以外の他者との関係がない、孤立状態にある
Bの自立した生活への支援がない、Aからの叱責への反応

＜二人の関係＞

強く思いあっている
母子二人きりの生活、力関係の逆転

＜取り巻く環境や支援者側の背景・要因＞

地域との交流がない

＜強み・できていること・がんばっていること＞

Aは母としてBの養育をがんばってきた。近隣のことを気にかけることができる。
Bは他者との関係を築くことを喜ぶ。「お仕置き」はいけないこと、と我慢することが出来る。

＜どのような虐待があると思われるか＞

B→A「死ね死ね!」
（「お仕置き」としてつねる）※A→B つねる
（過去は、ネグレクトがあったが解消）

＜いつ頃から始まったのか＞

Aが体調を崩し、力関係が逆転したことから生じたと思われる

＜発生する頻度・程度＞

1日に1度～2度程度か？
日常的に生じている

＜発生するきっかけ＞

Bが勝手に外に出るなど、Aの言いつけを守らず、AがBを長時間叱責した時。
Bが「死ね死ね!」と大声で泣きわめいて怒鳴ると、AがBを「お仕置き」（つねる）

＜発生しやすい時間帯等＞

Bの活動が活発になる午後が多いと思われる

＜生じていること／サインとして現れていること＞

Aの体調が回復してきたことから、Bへの叱責が増し、AがBをつねる行為の頻度が増している。
このことにより、Bの不満が増しており、訪問している職員へ不満を訴えることが増している。

＜このままにした場合、今後予測される事態＞

Bの不満が募り、Aへの激しい暴力が生じる可能性
Bが突発的に家を出て、事故等に遭う可能性

対応が必要な背景・
要因を支援課題とと
らえる

疑い・不明等、事実確
認の継続が必要な点も
支援課題ととらえる

強みを活かした対応
方法を検討する

緊急対応の必要性

☆緊急保護の必要性（ あり ・ なし ）
ありの場合、その方法（ 措置入所・緊急一時保護・養護委託・
契約入所・その他（ ） ）

☆その他に必要な緊急対応

（ 世帯で繰り返されている暴言・暴力の構造を、早急に当事者と共有し、解決を図る必要がある ）

現に生じている事
態や予測される事
態で、対応が必要
なものを支援課題
ととらえる

支援方針案

いつまでの計画か？

今日から3週間後

支援課題	支援内容	支援を実施した 場合に予測される 事態	左欄への対応策	優先 順	役割分担 担当者	当面の目標
Aは「近隣に迷惑をかけてはいけない」とBの養護を一人で抱えている	A, Bの障害福祉の就労継続支援 B 型やグループホーム等の見学を提案し、支援する	B が「ずるい」と思う可能性がある	B のサービス利用のことなので、B抜きに説明・決定しない	1	包括職員 C ↓ 相談支援事業所	包括職員Cが障害福祉サービスに詳しい職員として相談支援事業所を紹介する。

(結 果)

Bが突発的に家を出て、事故等に遭う可能性

今日から3週間後

(公財) 東京都福祉保健財団 高齢者・障害者権利擁護支援センター作成 R6年5月版

